

一科目「国際ボランティア」の自己点検評価ー〇西内みなみ(桜の聖母短期大学)

この研究は、海外研修を実施する科目「国際ボランティア」の自己点検評価を行い、そこでの成果をふまえながら、女子短期大学の家政教育においてグローバル教育の可能性を探るものである。桜の聖母短期大学では「愛と奉仕の心」そして「国際性」を涵養する建学の精神に基づいて、長年、教育課程の中に海外研修を位置付けてきた。その一つである科目「国際ボランティア」において、学生がどのような学習を行い、どのような変容を遂げたのかを、過去5年の取り組みを点検評価しながらアンケート調査によって検証した。

アンケート調査の結果は、指標「ボランティア活動の満足度」「授業以外でのボランティア活動への参加の有無」「ボランティア活動の必要性の理解度」「海外・国内でボランティア活動への参加意欲」のどれについても、科目「国際ボランティア」に参加した学生の方が参加しなかった学生よりも高い結果となり、教育効果のある可能性を示唆した。

その結果をもとに、家政教育におけるグローバル教育の可能性をこの科目「国際ボランティア」の中に探ってみた。その際、大津和子氏が提起しているグローバル教育の理論的枠組みを基に、仮説の提起を試みた。現状の取り組みでは、文化理解的アプローチ(異文化の存在を認める・異文化を理解する)はかなり達成されているが、関係発見的アプローチ(つながりを発見する・つながりの影響を発見する)はまだ萌芽的段階に留まっており、さらに問題解決的アプローチと未来志向的アプローチが今後の取り組みの課題であることがわかった。